別紙（別記様式第１号関係）

# 事　業　計　画　書

| | |
|---|---|
| 事　業　名 | 「岩村田商店街が取り組む　新たな子どもの居場所づくり」事業 |
| 実施箇所 | 佐久市岩村田741 「つどいの館こてさんね　1階　」 |
| 実施期間 | 事業開始予定年月日　　平成　29　年　　8月　10　日 |
| | 事業終了予定年月日　　平成　30　年　3　月　18　日 |

＜事業の目的＞

【背　景】

当組合では、地域発元気づくり支援金のお力を借りながら、平成18年から「子育て支援」に取り組んできた。

佐久平駅周辺の住宅事情が変化し、県外や他地域からの人口流入が増加し、さらには核家族の世帯が増加の一途をたどっている。そこには、「居場所に困っている母子」がかなり存在するといわれている。小学校高学年になるまでの子どもの居場所があまり多くないという現状があり、「子どもの居場所づくり」について「岩村田商店街」として、様々な団体から、支援や協力要請が寄せられている。

【課　題】

第一の課題　「未就園児」をかかえる、母子の居場所づくり

子どもを育てる環境を考えるとき、学校と家庭だけにその責務をゆだねる時代ではない。もうひとつの大きな力「地域」が大きくそれに関与していかねばならない状況に至っている。前述のように、当組合の直営の「子育て支援施設」でもその必要性が証明されている。また、他の団体事業の参加者からも同様の声が上がっている。

第二の課題　「食の支援」を中心とした小学校低学年の子どもたちの居場所づくり

他の団体の活動からも分かるように「食の支援」を中心にした、「子どもたちの居場所づくり」はニーズが高いことが証明されている。子育て支援を行ってきた、当組合独自の方法での支援を実施して、上記の課題を解消したい。

＜事業の内容＞

本事業の最終目標は「子どもの居場所作り」の完成

そこには将来的に、支援の必要な子どもを対象とした「食の支援」のできる場所、「学習支援のできる場所」、「子育て支援に必要な相談や託児機能」を兼ね備えた場所を設置することにある。

それを、長期計画をたてて、推進していく。

1、初年度（平成29年度）

・岩村田商店街として取り組める、「子どもの居場所づくり」のトライアル

（食の支援＋居場所づくり支援）

・実際のニーズの調査と検証

2、二年目（平成30年度）

・29年度に実施した事業のPDCAサイクルに基づき、「継続運営できる」仕組みを実践する。

常設できる「お母さん食堂」を運営

・子どもの居場所作り　として、「お母さんのたまり場」になりやすい機能を付加する。

・学習支援の場作りのトライアルを実施

3、三年目（平成31年度）

・子ども食堂・学習支援・相談支援が実現できる機能をそろえる

継続的に事業運営できる仕組みを完成させる。

平成29年度の具体的な取り組み

「子どもの居場所作り」のためのイベントの実施

| | |
|---|---|
| 事業概要 | ①こどもまちゼミ(午前10時～11時)<br><br>「こどもたちの居場所」になる、「きっかけづくり」として、こどもたち(親も同伴可)に商店街のお店を探検してもらう。商店街には、どんなお店があってどんなことをやっているんだろう？ということを分かってもらうために、商店街の各店の協力を仰ぎ、「こどもまちゼミ」(各お店に行って、実際にいろんな指導を受ける。時計屋さんで、分解掃除の体験をしたり、カフェで、ハンバーガーの作り方を習ったり、ボクシングジムで、ボクシング体験をしたり・・・etc<br><br>②みんなで食事会(午前11時20分～13時30分)<br>まちゼミのあと、みんなで協力して「料理をつくり」食事会を開催する。(この食事会は、今後の「食事支援」の基礎となる「ママさん食堂」を運営するためのノウハウ作りを兼ねることになるので、運営にあたっては専門の指導者がついて指導する。)<br><br>③わいわい相談会＆勉強タイム(13時30分～15時)<br>子育ての悩みや、進路相談など、気軽にお茶しながら「ダベリングカフェ」こどもたちは、宿題持ってきて「勉強タイム」<br>(保育士や、保健師、 教育関係者などを配置)<br>上記のスケジュールで、イベントを開催。<br><br>第1回 平成29年10月22日(日)<br>第2回 平成29年11月19日(日)<br>第3回 平成30年1月14日(日)<br>第4回 平成30年2月18日(日)<br>第5回 平成30年3月18日(日)<br>場所 :こてさんねおよび各店舗<br>定員:40～50名を予定 |
| | 各イベントの告知方法<br><br>各小学校、近隣の幼稚園保育園施設へのリーフレット配布<br>web,SNSを活用した告知<br>佐久市民活動サポートセンターからの告知<br>佐久市の情報掲示板、県の情報掲示板などの活用<br>養護施設、宅幼老所等へのリーフレット配布<br><br>まずは、この事業に賛同する人々のグループを構成すること。<br>つぎに、この支援が恒常的なるようなスキーム(事業の仕組み)を構築すること。それらによって単発に終わらない地域での支援の仕組みが構築されることになる。 |
| | ＜事業の効果・アピールポイント＞<br>より多くの親子に集まって頂くことで、貧困児童(経済的貧困ばかりでなく、精神的な貧困児童も含めて)の食事を通した「居場所」になることができる。また、それらの子を取り巻く大人たちが、気軽につどい、問題を吐露し、いろいろな人に救済の道を教えられ、「居場所」になれる。これからの街づくりに欠かせない「子育て」の基本をこの事業を通じて実現できる。また、この事業を通して商店街の魅力を知ってもらい、集客増にもつなげることができる。さらに、各個店も、自店のPRに磨きをかけることで、商店街自体の魅力アップにもつながる |
| | ＜事業における市の役割分担＞<br>地域コミュニティの担い手として、商店街がこのような課題に取り組むとき、市の行政担当課を越えた協力<br><br>・学校教育課および教育委員会、学校・・支援の必要な親や子どもへの情報提供の協力、双方にとって重要な情報の共有化<br>・福祉課、子育て支援課・・差し伸べられる支援、援助の提示<br>・商工振興課・・店舗運営に当たっての財政的支援、運営方法のアドバイス支援<br><br>横串の連携によって、財政的な面だけでなく、情報の共有、差し伸べられる支援の提案、使用できる公共施設の提供など、さまざまな面で、本事業を支援頂きたい。 |